

令和4年5月22日（日曜日）

女子盛岡二が初制覇

卓球



女子団体決勝 盛岡二―専大北上
勢いづけた盛岡二の佐藤詩華（左）と吉田真桜||宮古市民総合体育館

【男子】
▽団体準々決勝

▽団体準々決勝
専大北上 3-0 盛岡工
一関二 3-1 宮古商工
花北青雲 3-1 花巻北
▽準決勝
専大北上 3-0 一関二

▽決勝
専大北上 3-0 盛岡三
○佐藤暁太 3-1 畠山彰太
○齋藤太一 3-0 千葉悠希
○大場隆也 3-0 畠山彰太
○鈴木孝空 3-0 川田華也
（専大北上は10大会連続27度目の優勝）

優勝

【女子】

▽団体準々決勝

盛岡二 3-0 盛岡三
一関一 3-1 花北青雲
盛岡市立 3-0 水沢
専大北上 3-1 一関二

▽準決勝

盛岡二 3-2 一関一
専大北上 3-0 盛岡市立

▽決勝

盛岡二 3-2 専大北上
岩淵有唯 0-3 高橋心愛○
鈴木姫凪 2-3 熊谷美柚○
○佐藤詩華 3-1 高橋心愛
吉田真桜 3-1 菊池叔奏
○佐藤詩華 3-1 菊池叔奏
○吉田真桜 3-0 鈴木彩華
（盛岡二は初優勝）

（岩手日報）

この記事は岩手日報社の許諾を得て転載しています。

1、2年生奮闘で大逆転

初優勝の瞬間、選手たちのほおに大粒の涙が伝った。女子団体の盛岡二は決勝で、二つのシングルスを取られてからの大逆転で専大北上に勝利。昨秋の新人大会を制して重圧がかかる中、1、2年生が奮闘。チーム一丸で頂点に立った。0-2と後がない状況で迎えたダブルス。佐藤詩華（2年）・吉田真桜（1年）組は序盤、動きに硬さがみられた。チームの支柱である3年生の主将の欠場で、急ぎよ。ペアを組んだ2人。「ここで負けるとインターハイを逃す」（佐藤）。緊張が高まった。1-1で迎えた第3セット。監督の指示で、同じ方向に繰り返し打球を押し込んで相手の姿勢を崩した。簡単に攻めさせないことを徹底してリズムをつかむと、昇新人大会シングルス準優勝の佐藤が本領を発揮。鋭い打球を突き刺してこのセットを14-12で奪った。試合は3-1で押し切った。岩淵有唯部長（3年）は第1シングルスで敗れたものの「簡単には負けない」と思って戦った」とチームの勝利に徹してプレー。来る全国の大舞台も、部員全員で1勝をもぎ取りに行く。

女子団体が初優勝を遂げた盛岡二



（岩手日報）

この記事は岩手日報社の許諾を得て転載しています。